

図書館通信



豊かな時間を図書館で

平成30年

10



月号

第451号 (第37巻第7号)

【目次】

- | | | | |
|-----|-------------|------|-------------------------|
| P 1 | 登別温泉配本所のご案内 | P 6 | 職員コラム |
| P 2 | 行事と展示のお知らせ | P 7 | 図書館員のおすすめ本 |
| P 3 | 事業報告 | P 8 | 新着図書案内 |
| P 4 | アーニス分館だより | P 12 | カレンダーとご報告,
図書館施設のご案内 |
| P 5 | 市民の広場 | | |

編集・発行 登別市立図書館

URL <http://www.noboribetsu.ed.jp/~iinkai/library/>

〒059-0012 登別市中央町5丁目21-1

E-mail toshokan@city.noboribetsu.lg.jp

電話 (0143) 85-4324

FAX (0143) 85-4325

登別温泉配本所のご案内

登別温泉配本所は道南バス登別温泉ターミナル隣の登別温泉ふれあいセンター内に設置されています。

旅行書を含む一般書・児童書合わせて約3600冊の蔵書をそろえています。登別市立図書館では登別市民に限らず図書館の利用者カードを作成できます。そのため登別温泉配本所では登別温泉に湯治に来た方、旅行者、短期移住者などさまざまな方にご利用いただいています。また配本所内にはかつて登別温泉を訪れた与謝野晶子などの俳人・歌人の色紙なども展示しており開館時間中は自由に観覧することができます。開館時間は午前9時から午後3時までとなっておりますが、年末年始も休館せずに開館しております。

温泉街を訪れた際など、どうぞご利用ください。

(利用者カード作成時には免許証など住所を確認できるものが必要です。)



映画会

事業等の都合により今月の映画会は休止します。

イベント・講座

※会場はいずれも図書館3階会議室です。

ビブリオバトルの夕べ・・・共催 いぶりびぶりぶ♪ 松田靖子さん

お茶を飲みながら、お気に入りの本の紹介を楽しみます。

開催日時 10月18日(木) 午後6時～午後7時30分

● 申込不要

はじめてのデータベース・・・講師 登別市立図書館長 綿貫 亨

図書館で導入しているデータベースの利用方法をご紹介します。

開催日時 10月20日(土) 午前10時30分～正午

申込期間 9月30日(日)～10月18日(木) ※定員になり次第、受付終了

● 申込制

読書週間記念事業「私のコレクション・ブックetc展」

個人や団体が集めた月刊誌や年代物の雑誌、映画の入場券などの印刷物を展示します。

展示予定 「暮らしの手帖」(昭和32年～) 「キネマ旬報」(昭和21年～) など

開催期間 10月27日(土)～11月2日(金)

※皆様からの出品も募集中です。

(資料によってはお断りする場合がございます)

● 申込不要(観覧)

おはなし会

※会場は①のみ図書館3階会議室、
②と③は図書館1階のえほんのへやです。

①おはなしくれよん(わらべうたや絵本を楽しむ会)

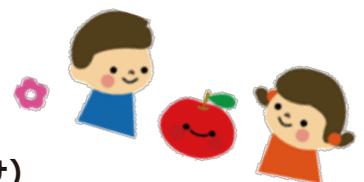
日時 10月10日(水) 午前10時30分より

②えほんのへやのおはなしかい(絵本や紙芝居の読み聞かせ)

日時 10月13日(土) 午後2時より

③おはなしぽけっと(絵本や紙芝居の読み聞かせ、エプロンシアターなど)

日時 10月27日(土) 午後1時30分より



ロビー展示

赤い鳥 創刊100年展

展示期間 9月25日(火)～10月25日(木)

展示場所 図書館1階 ロビー

事業報告

「本とあそぼう 全国訪問おはなし隊」 がやってきた！

8月25日（土）に講談社の「本とあそぼう 全国訪問おはなし隊」がやって来ました。

悪天候の中、約60名もの親子連れが見学に訪れました。

「もったいないばあさん」や「ショコラちゃん」などのキャラクターが描かれたピンク色のキャラバンカー1号車には約540冊の本が積み込まれており、バスの中で多くのこどもたちが、思い思いに本を手にとって楽しんでいました。

また、おはなし隊の隊長と読み聞かせボランティアのおはなしぽけっとさん3名の隊員によるおはなし会では、大型絵本と大型紙芝居を含む5冊の本の読み聞かせが行われました。

こどもたちは、隊長の出すクイズに元気よく答えたり、おはなしに真剣に耳を傾けたり、最後には「おみやげ」のシールをもらって、笑顔で会場を後にしました。



年長児の読書感想画作品展



9月1日（土）より、図書館を含む市内3会場において「年長児の読書感想画作品展」を開催しました。

今年も市内8か所の幼稚園・保育所から合計280点もの作品が寄せられ、各会場で来場された方々を楽しませてくれました。



アーニス分館だより



読書の秋



アーニス分館では

- * 「今月のおすすめ」の展示を行っています。
- * DVDを視聴できます。
- * 雑誌は最新号の一夜貸しも行っています。
- * 見やすい大活字本もあります。
- * 貸出が済んだ本は、アーニス分館入口前の「お休み処」で読む事が出来ます。



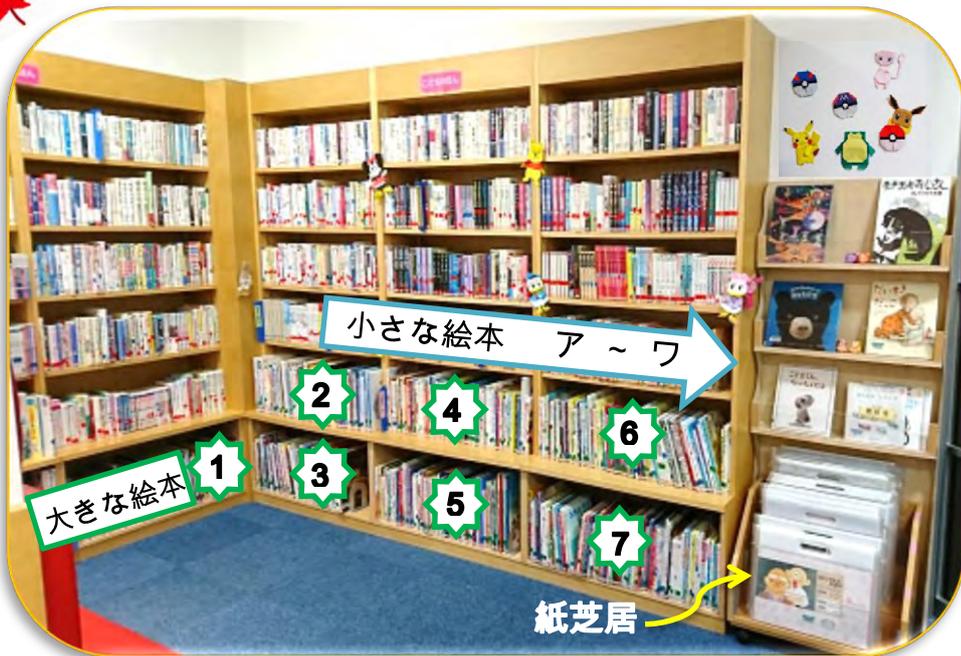
検索した絵本が、
探しやすくなりました！

日本と外国の作者を一緒にしました。

小さな絵本・大きな絵本のそれぞれを、**絵作者の名前のアイウエオ順**に並べています。

小さな絵本は横一列に！

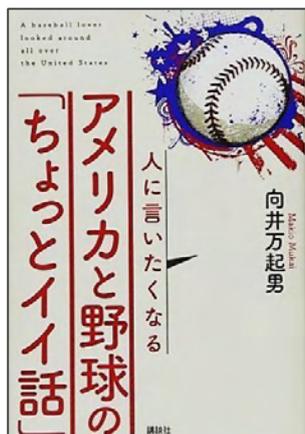
大きな絵本の棚は、右図のとおり**1～7の順番**です！



新刊おすすめ本紹介



人に言いたくなるアメリカと野球の「ちょっとイイ話」 / 向井万起男 著 / 講談社



アメリカ人とアメリカ文化を知るのに、大リーグほど良い教材はない！大リーグ・大リーガーを通して米国の歴史や文化について語る。日本一の大リーグ通による、2007年から続く『朝日新聞』夕刊連載コラムからエッセイの名手の真髓が堪能できる珠玉の78本を厳選。

米国映画のDVDコレクターで、大リーグの熱狂的ファンの著者が、小さな町の野球博物館を目指して、持参の演歌を聴きながら、広大なアメリカをドライブしています。旅行エッセイとしても楽しめます！



片倉景光を追いかけて

図書館ボランティア 高森繁美

6年前、ひよんなことから片倉小十郎景光を追いかけることになった。

登別温泉で開いた高校クラス会の翌日、立ち寄った「銀のしずく記念館」で同じ幌別中学校出身の親友Tに、「お前の苗字、随分、雄大だが、どうしてだ」と聞いたら、「オヤジの話では、片倉家の家来につけてもらった」と答えた。

歴史を遡れば、明治5年の戸籍法施行で、我ら平民にも、Tの祖先のアイヌにも漢字の氏名がつけられたが、はて、片倉家とは？ 知人に聞くと、明治3、4年に宮城県の片倉家臣団が幌別に入植したが、その後札幌白石や宮城に散って、この地に留まっている末裔は数える程だという。

それにしても、知らなかった。小中学校時代、授業で習ったのかもしれないが、片倉の「カ」の字も記憶にない。室蘭での勤務が長かったのも、故郷の歴史知らずに拍車を掛けたか。ならば、この目で—と、登別市立図書館通いが始まった。

何はさておき、手にしたのは「市史ふるさと登別」。本庄陸夫の「石狩川」に描かれている大地の侍同様、にわか農夫になった家臣らがお家再興のために奮闘する歴史が記されている。さらに読み進んでいくうちに、片倉家第13代当主景光の存在に心奪われた。

修学中の東京から呼び戻され、客馬車の御者や役所の臨時雇員、郵便配達夫、搾乳業、そして小平河岸（現片倉町）に家族を引き連れての本格入植と、ひと時代違えば味わうことが出来ない苦難の人生を歩んだ人物は、十分ドラマの対象になり得る。しかも幌別、室蘭時代を合わせ、37年ぐらいはこの地域で暮らしたのだ。

しかし、本人を写したモノクロ写真は数枚、市史や町史などに載っているが、明治四十年暮れ、旧領白石に帰るまでに景光が書き残したものが見当たらない。元々ないのか、どこかにあるのか。自分なりに四方八方探してみたが、未だ鉾脈にぶち当たらず。わずかに、男爵になった翌三十二年、カルルス温泉の開湯式に招かれ詠んだ歌一首が、人となりを想像させる。

強かりし やまひの根さへ かるゝすの いで湯の道も 開きそめけり

（重い病気もカルくなるカルルス温泉の、道開かれる…か）

黙して語らない幌別村男爵の、遊び心をこの歌に垣間見た。

ただ、ドラマは主人公だけでは成立しない。片倉家の三賢、本沢直養、斉藤良知、日野愛熹や佐野源蔵、熱海勝など、周辺の人物に光を当てるほど、調べなければならぬ課題は積み上がっていく。例えば、景光より早く、小平河岸に入植した斉藤弥太郎。景光の長女コウが語るには、毎晩、風呂に入りきた弥太郎は維新前、お城で「おしみきり」という仕事をしていたというが、「おしみきり」とは、なんぞや？ 「白石城物語」を開いてみたが、それらしい言葉は見つからなかった。

北海道150年—。そして来年は、片倉主従第一陣の幌別入植から150年。図書館3階の郷土資料室や道立図書館から「ぷやら」各号や「片倉代々記」「佐野家家誌稿」「奥州白石ばなし」などなど、室蘭、伊達の図書館に向いては市史や関連資料を調べたが、まだまだ下調べは浅い。景光像探索は続く。

マンガばかりよんじゃだめ。

子供が漫画ばかり読んでいて困る、もっと活字の多い本を読んで欲しい、そうした移行はどうすればいいのか、という悩みが知り合いの親御さんから聞こえてくることがあり、大変なんだなと思う時があります。

けれど、漫画を読んだって何もならないと思われると、少々悲しい気分にもなります。漫画を読んで絵の迫力を楽しみ、それに付随するセリフで言葉を覚え、主人公の純真さに感銘を受ける時代も、貴重な財産なのです。

私自身も、本当に漫画ばかり読んでいた子供でした。

しかし現在は、小説を長い時間かけながら楽しんで読めていますし、ましてや図書館の職員として働くようになり、そんなに早くは読めないのに手にした本が全て読みたくなってしまような人間に成長しています。それはなぜなのか。

図書館の職員にまでなっているのだから、子供のころから両親に絵本をたくさん読んでもらったのだらうと思われるかも知れませんが、絵本を読み聞かせてもらった記憶はあまりありません。

両親も忙しい人たちだったので、書棚というものを持っておらず、あまり読書をしている姿を見た覚えもありません。しかし、3つ年の離れた兄の部屋に行くと、漫画からフリガナのふっていないちょっと難しい文庫本まで色々とゴチャゴチャに並んでいたものですから、迷惑がられながらも楽しくていつも読みに行っていました。

そこで読んだ「ドラえもん」の長編漫画で、楽しい冒険と共に訪れる危険な出来事に教訓を覚えたり、のび太の深い優しさや勇敢な心を知って感動に打ち震えたことは、私が物語という世界を正面から受け止めたキッカケだったかも知れません。

でも兄の持っている漫画ばかり読んでいたせいか、いつしか線の細い男の子を好きになる女の子の話よりも、筋肉隆々な主人公が、見知らぬ宇宙人と戦闘を繰り広げる話のほうに、ときめきを覚える少女となっていました。

私のような失敗例は置いておいたとしても、身近にいろんな本があるというのは、自然と読書をするにつながりやすくなります。最初は漫画を読みながら、そのうち好きな挿絵を楽しみにして字のほうが多い本を手に取り始めます。そして物語というものを、差し出された絵ではなく、自分の脳内で創造して読み進める事の何にも代え難い素晴らしさを知った時に、活字を追う目が止まらなくなっているのです。

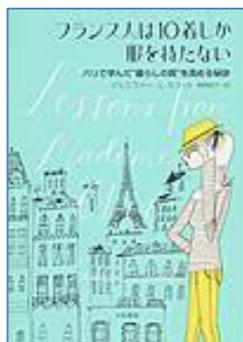
一般書の貸出を担当させていただいた時のことを思い出しますと、待っていた本が手元に来て、それを受け取る時の嬉しそうな笑顔は、子供さんも大人の方も全く変わりありませんでした。本というものは、やっぱりすごい物なのだと図書館で働き始めてから日々思い知らされています。

ですから、漫画じゃなく小説を読みなさい、と区別してしまうのではなく、ただそっと、年齢にもジャンルにもこだわらずに色々な本を、その子の手の届くところに置いてあげてください。

そうすれば、今の自分にふさわしい本を、見つけてくれるかも知れません。



「フランス人は10着しか服を持たない ジェニファー・レスコット／著
 ～パリで学んだ“暮らしの質”を高める秘訣～」神崎朗子／訳 大和書房



典型的なカルフォルニアガールだった著者が、留学生としてフランスのパリにホームステイし、そこでホストファミリーのマダムから学んだ、毎日を“特別な日”のように生きる秘訣が詰まった一冊。

私がこの本を手にしたとき、タイトルから興味を持ちました。10着しか服もっていないだなんて！と思ったのですが読み進めていくうちに、このタイトルの意味と“暮らしの質を高める”その意味に納得。

今は何でも手にはいる時代です。新しいものを買っては飽き…。私もそのうちの一人です。ですがこの本を読んで、物のありがたみ、質の良いものを大切にする気持ち、暮らしの中のささやかな喜び…等々たくさんのことを改めて知ることができたような気がします。いつもは気にもしないことに、ちょっと目を向けるだけで、こんなにも質の良い暮らしができるなんて…！！

では、ここで著書の中の秘訣をひとつご紹介します。

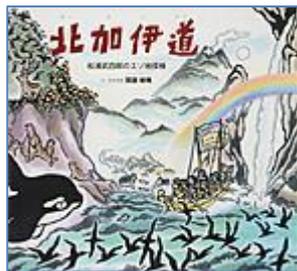
「お腹をすかせて夕食を心から楽しむ」です。これは簡単そうに見えて実は難しいのではないのでしょうか。お腹を空かせてから食事をすることで心から満たされるということに繋がっていくのだと思います。他にも様々な暮らしの質を高める秘訣が描かれています。

何気ないことに目を向け今の日常を豊かにし特別な日々を送ってみませんか？シリーズ作も所蔵していますので是非！！

郷土資料紹介

「北加伊道 松浦武四郎のエゾ地探検」

関屋 敏隆／文・型染版画 ポプラ社



北の大地をくまなく歩き、自然と、そこに生きる人びとの暮らしを詳細に記録した幕末の探検家・松浦武四郎。その、いのちをかけた旅の生涯をダイナミックに描く一冊。こちらは児童図書になりますが、北海道青少年のための200冊にも選ばれています。北海道の名づけ親と言われている松浦武四郎が、各地の地名を付けていく過程が、わかりやすく描かれています。児童書なので、とても読みやすいですよ。

新着図書案内 平成30年10月 No.1

●印は今評判の本です。(電話やメール・ホームページでも予約を受け付けています)

書名	著者	書名	著者
0 総記		新にっぽん奥地紀行 イザベラ・バードを鉄道でゆく	芦原 伸
● たすけて！エクセルがむずかしいっす	みやした ゆきこ	● ゲツベルスと私 ナチ宣伝相秘書の独白	ブルンヒルデ・ポムゼル
サルたちの狂宴 上・下	アントニオ・ガルシア・マルティネス	● 人生は、いくつになっても素晴らしい	ダフネ・セルフ
● NO BOOK NO LIFE Editor's Selection	雷鳥社	図説世界を変えた100の文書(ドキュメント)	スコット・クリスチャンソン
認知症予防におすすめ図書館利用術 2	結城 俊也	傘寿を越えてふらりひとり旅	高橋 保子
記憶力日本一を5度獲った私の 奇跡のメモ術	池田 義博	るるぶ伊豆箱根 '19	JTBパブリッシング
周作人読書雑記 3	周 作人	● サラリーマン2.0 週末だけで世界一周	東松 寛文
決断を支えた一冊 リーダーの本棚	日本経済新聞社	深夜航路 午前0時からはじまる船旅	清水 浩史
1 哲学・宗教		● カルピスをつくった男 三島海雲	山川 徹
いい古い加減	石川 恭三	戦国 戦の作法	小和田 哲男 監修
東大寺のなりたち	森本 公誠	定期便でいく豪華フェリー船旅ガイド	笠倉出版社
幸福とは何か ソクラテスからアラン、ラッセルまで ゼロから分かる！歩いて知る 神社と神さま	長谷川 宏	江戸城と大奥 サライの江戸	小学館
人生後半の幸福論	植島 啓司	● 絵図にみる幕末の北辺防備	戸祭 由美夫
● 光のもとで 函館・トラピスチヌ修道院	齋藤 孝	大英帝国の歴史 上・下	ニール・ファーガン
北海道新聞 函館支社報道部		3 政治・経済・社会・教育	
ハッピーシニアの参考書	河村 都	賤民と差別の起源	筒井 功
歳を取るのも悪くない	養老 孟司	海へ還る 海洋散骨の手引き	村田 ますみ
心理学でわかるひとの性格・感情辞典	渋谷 昌三 監修	● 面従腹背	前川 喜平
神恐ろしや 宮司が語る、神社をめぐる不思議な話	三浦 利規	全告白後妻業の女	小野 一光
ジョン・ロック 神と人間との間	加藤 節	もういちど読む山川政治経済 新版	山崎 広明
2 歴史・地理		男女平等はどこまで進んだか	山下 泰子 監修
● 原爆 広島を復興させた人びと	石井 光太	金融政策に未来はあるか	岩村 充
古代-近世「地名」来歴集	日本地名研究所 監修	届け出だけでももらえるお金 大図解	井戸 美枝
松浦武四郎の十勝内陸探査記	松浦 武四郎	住まいで「老活」	安楽 玲子
軍艦島池島長崎世界遺産の旅	黒沢 永紀	わが子に公務員をすすめたい親の本	寺本 康之
学問の発見 数学者が語る「考えること・学ぶこと」	広中 平祐	うちの子、安全だいたいようぶ？ 新しい防犯教育	宮田 美恵子
戦後ゼロ年東京ブラックホール	貴志 謙介	戦争は犯罪である 加藤哲太郎の生涯と思想	小松 隆二
ナチスに挑戦した少年たち	フィリップ・フーズ	● 百年の女 『婦人公論』が見た大正、昭和、平成	酒井 順子
旅育BOOK	村田 和子	佐々木正美の子育て百科	佐々木 正美
明日行きたくなる世界でいちばん 素敵な場所	一迅社	雪ぐ人 えん罪弁護士今村核	佐々木 健一
風土記から見る日本列島の古代史	瀧音 能之	未来の中国年表	近藤 大介
漢文研究法 中国学入門講義	狩野 直喜	帝国議会	久保田 哲
海賊の日本史	山内 譲	自衛隊失格	伊藤 祐靖

新 着 図 書 案 内 平 成 30 年 10 月 No.2

広報のほりべつでも新着図書の紹介をしています。

書 名	著 者	書 名	著 者
● 見る力 アガワ流介護入門	阿川 佐和子	爬虫類ハンター加藤英明が世界を巡る	加藤 英明
コーヒーと日本人の文化誌	メリー・ホワイト	おいしい&ヘルシー！はじめてのスパイスブック	カワムラ ケンジ
損する気づかい得する気づかい	八嶋 まなぶ	天の川が消える日	谷口 義明
子どもに伝える行事食	食べもの文化編集部	● ほぼ命がけサメ図鑑	沼口 麻子
教育学部 中高生のための学部選びガイド	三井 綾子	殺人に至る「病」	岩波 明
地理女子が教えるご当地グルメの地理学	尾形 希莉子	鳥の卵	ティム・ パークヘッド
地銀・信金ダブル消滅	津田 倫男	北欧式眠くならない数学の本	クリスティン ・ダール
権力の「背信」 「森友・加計学園問題」スクープの現場	朝日新聞取材班	舌を鍛えると長生きできる！	平野 浩彦
平成の重大事件	猪瀬 直樹	ムセはじめたら、「1分のどトレ」	藤谷 順子
民主政とポピュリズム	佐々木 毅	カラス先生のはじめてのいきもの観察	松原 始
警察官白書	古野 まほろ	野草と暮らす365日	山下 智道
● 朝日ざらい	橘 玲	身近にいる「やっかいな人」から身を守る方法	マーク・ ゴールストン
対立の世紀 グローバリズムの破綻	イアン・ブレマー	美しい変形菌	高野 丈 写真
● タイワニーズ 故郷喪失者の物語	野嶋 剛	科学者はなぜ神を信じるのか	三田 一郎
昭和陸軍の研究 上・下	保阪 正康	水族館の文化史	溝井 裕一
60歳を迎えた人の厚生年金・国民年金Q&A	服部 营造	● 新薬の狩人たち 成功率0.1%の探求	ドナルド・ R.キルシュ
帝国陸軍師団変遷史	藤井 非三四	● 蜂と蟻に刺されてみた	ジャスティン・ O.シュミット
本質をつかむ聞く力	松原 耕二	とんでもない死に方の科学	コーディー・ キャシディー
学年誌が伝えた子ども文化史 昭和50～64年編	小学館	ドクター朝田の間違いだらけの子どもの歯みがき	朝田 芳信
都心集中の真実 東京23区町丁別人口から見える問題	三浦 展	につぼんズメ楽園(パラダイス)	中野 さとる 写真
● コンビニ外国人	芹澤 健介	ネット依存・ゲーム依存がよくわかる本	樋口 進 監修
ラーメンの歴史学	バラク・クシュナー	5 技術・工業・家事	
祇園祭 その魅力のすべて	アリカ	● マキ流やめていい家事	マキ
4 自然科学・医学		● 片づけのレシピ	梶ヶ谷 陽子
数学を嫌いにならないで	ダニカ・マツケラー	その手があったか！おつかれ晩ごはん	家ごはん研究会
命を縮める「睡眠負債」を解消する	白川 修一郎	奥菌流からだ想いのひとりごはん	奥菌 壽子
夜やせ健康！水煮缶	南雲 吉則 監修	日本軍用機事典 陸軍篇・海軍篇 新装版 1910～1945	野原 茂
温泉の日本史	石川 理夫	いちばんくわしい魚のおろし方と料理	島津 修
地震学をつくった男・大森房吉	上山 明博	ママにはなれないパパ	鈴木 おさむ
分かちあう心の進化	松沢 哲郎	60歳からは「小さくする」暮らし	藤野 嘉子
医者が教える最強の温泉習慣	一石 英一郎	陛下、お味はいかがでしょう。 「天皇の料理番」の絵日記	工藤 極
シニアの白内障緑内障加齢黄斑変性	大鹿 哲郎 監修	SketchBookのすべて	MdN編集部
岩石の科学	西川 有司	YouTube完全マニュアル	桑名 由美

新着図書案内 平成30年10月 No.3

●印は今評判の本です。(電話やメール・ホームページでも予約を受け付けています)

書名	著者	書名	著者
5 技術・工業・家事		明治日本の産業革命遺産	岡田 晃
濃厚デザート	隈部 美千代	60歳からも犬や猫と幸せにくらす本	犬と猫とシニアの暮らしを考える会
トヨタ現場の「オヤジ」たち	野地 秩嘉	熱海の奇跡	市来 広一郎
マツダの魂 不屈の男 松田恒次	中村 尚樹	7 芸術・スポーツ	
● 玲子さんののんびり老い支度	西村 玲子	ざっくり甲子園100年100ネタ	オグマ ナオト
あみぐるみの技法書	日本あみぐるみ協会	作りたい使いたいエコクラフトのかごと小物	寺西 恵里子
から揚げは、「余熱で火を通す」が正解!	上田 淳子	楽しむ! 極める! キャンプ完全ガイド	木村 東吉 監修
若山曜子のワンボウルサラダ	若山 曜子	人気キャラクターのちょこっとメモ折り紙あそび	いしばし なおこ
ゼロから分かる! 日本茶の楽しみ方	ブレケル・オスカル	ちひろメモリアル 生誕100年	平凡社
ステキを作る60代からのソーイング	ブティック社	証言大谷翔平	野村 克也ほか
スグやせ! 糖質オフのラクうまレシピ150	江部 康二	贈って喜ばれる素敵なカリグラフィー	北見 都
すっぱい料理	飛田 和緒	井山裕太七冠再び	井山 裕太
地域絶品づくりのマーケティング	三浦 功	季節のおりがみ花飾り	いまい みさ
ひとりごはんの愉しみと工夫	有元 葉子	美貌のひと 歴史に名を刻んだ顔	中野 京子
はじめが肝心		手に持って、行こう	小栗 左多里
渋谷容子のすてきな着物リフォーム	渋谷 容子 監修	世界遺産100断面図鑑	中川 武 監修
すぐに始められるおいしい元気☆麴ごはん	矢路川 結子	やっぱ志ん生だな!	ビートたけし
罪悪感のない間食・夜食	木村 幸子	絵本のなかを旅するようなかわいい世界の村	MdN編集部
こうや豆腐&粉豆腐幸せレシピ	前本 勝利 監修	あたらしい草花あそび	相澤 悦子
● あした死んでもいい身辺整理	ごんおばちゃま	マラドーナ独白 1986年のメキシコW杯	ディエゴ・アルマンド・マラドーナ
赤ちゃんに作ってあげたいスタイとブルマ	ブティック社	大人かわいい物語のカラー切り絵	平石 智美
みんなの脳活性編み物全70点	ブティック社	思い通りに奏でる複音ハーモニカ上達のコツ50	田邊 峯光 監修
サラダ好きのシェフが考えたサラダ好きに贈る137のとおきサラダ	音羽 和紀	必ず成功する激ウケ! マジック	Billy 監修
食いしん坊のお弁当ダイアリー	雅姫	● ロダンを魅了した幻の大女優マダム・ハナコ	大野 芳
6 産業・商業		● 「北の国から」異聞	倉本 聰
地元の力を生かす「ご当地企業」ビッグデータで読み解く47都道府県	帝国データバンク	おもしろ動物折り紙	木村 良寿
誰も教えてくれない田舎暮らしの教科書	清泉 亮	トトロの生まれたところ	宮崎 駿 監修
世界のエアポート 魅惑の浪漫空間	イカロス出版	人に言いたくなるアメリカと野球の「ちょっとイイ話」	向井 万起男
イノベーションの大地北海道 変革をもたらす人・発想・現場	鷲田 小彌太 井上 美香	8 言語	
ああ、犬よ! 作家と犬をめぐる28話	キノブックス編集部	脱! あがり症	渡邊 由規
日本全国駅名めぐり	今尾 恵介	基礎からレッスンはじめての中国語	南雲 大悟
東京ディズニーリゾートクロニクル35年史	ディズニーファン編集部	翻訳ってなんだろう?	鴻巣 友季子
● 「徹子の部屋」の花しごと	石橋 恵三子	● 物語を忘れた外国語	黒田 龍之助

新 着 図 書 案 内 平成30年10月 No.4

広報のほりべつでも新着図書の紹介をしています。

書 名	著 者	書 名	著 者
913 日本の小説		劉裕 豪剣の皇帝	小前 亮
● 星夜航行 上巻・下巻	飯嶋 和一	おやすみ、東京	吉田 篤弘
● TIMELESS	朝吹 真理子	オールドレンズの神のもとで	堀江 敏幸
● 鵜頭川村事件	榎木 理宇	● 北条早雲 疾風怒濤篇 5	富樫 倫太郎
● 骨を叩く	宇佐美 まこと	● ディス・イズ・ザ・デイ	津村 記久子
● 天子蒙塵 第3巻	浅田 次郎	● がいなもん 松浦武四郎一代	河治 和香
● 師弟の祈り 旅路の果てに (僕僕先生 11)	仁木 英之	怪しくて妖しくて	阿刀田 高
● 罪なき子	小杉 健治	エンディングドレス	蛭田 亜紗子
はるか	宿野 かほる	正しい女たち	千早 茜
官邸襲撃	高嶋 哲夫	● 偽姉妹	山崎 ナオコーラ
スタンドアップ!	五十嵐 貴久	おいぼれハムレット (落語世界文学全集)	橋本 治
消えていく日に	加藤 千恵	9 その他の文学	
空港時光	温 又柔	● 編集者漱石	長谷川 郁夫
● 火花散る(おいち不思議がたり 4)	あさの あつこ	渡辺淳一のすべて	渡辺 淳一ほか
ミステリなふたり	太田 忠司	● 作家がガンになって試みたこと	高橋 三千綱
能登花嫁列車殺人事件	西村 京太郎	十三の物語	ステイーヴン・ ミルハウザー
● 宝島 HERO's ISLAND	真藤 順丈	村上春樹の100曲	栗原 裕一郎ほか
火刑列島	森 晶麿	作家たちの愚かしくも愛すべき中国	高 行健ほか
幸せな結婚	小島 慶子	ユーカラ邂逅 アイヌ文学と歌人小中英之の世界	天草 季紅
● 異郷のぞみし 空也十番勝負 青春篇 5	佐伯 泰英	江戸「仕事人」案内	岡村 直樹
完全犯罪の死角 刑事花房京子	香納 諒一	総務部長はトランスジェンダー	岡部 鈴
合邦の密室	稲羽 白菟	未来製作所	太田 忠司ほか
ライトマイファイア	伊東 潤	かんがえる子ども	安野 光雅
● 巨悪	伊兼 源太郎	つる花の結び 源氏物語 上・下	紫式部
● 火のないところに煙は	芦沢 央	● くろちゃんとツマと私	南 伸坊
くわえ煙草とカレーライス	片岡 義男	葉室麟 洛中洛外をゆく。	葉室 麟・ 洛中洛外編集部
絶望キャラメル	島田 雅彦	話しベタですが…	浅田 次郎ほか
● 噛みあわない会話と、ある過去について	辻村 深月	ベスト・エッセイ 2018	日本文藝家協会
道具箱はささやく	長岡 弘樹	● 芸は人なり、人生は笑いあり 歌丸ばなし 2	桂 歌丸
● 島のエアライン 上・下	黒木 亮	虎の宴	リリー・ライト
パパはわるものチャンピオン ノベライズ	藤村 享平	フーテンのマハ	原田 マハ
真夜中の子供	辻 仁成	旅先のオバケ	椎名 誠
琴乃木山荘の不思議事件簿	大倉 崇裕	ベスト本格ミステリ 2018	本格ミステリ 作家クラブ

ご報告

9月6日に発生した北海道胆振東部地震におきまして、当館では本館書庫の本が大量に落下しましたが、建物等に被害はありませんでした。

8日からは、本館・こぐま号・アーニス分館・各配本所とも通常通り開館しております。

各方面よりお見舞いやご心配をいただきましたこと、衷心より御礼申し上げます。

登別市立図書館職員一同

図書館カレンダー 平成30年10月

日	月	火	水	木	金	土
	1 本館休館	2	3	4 ブックスタート 分館休館	5	6 油絵講座
7	8 体育の日 本館休館	9 祝日振替 本館休館	10 おはなしくれよん	11 分館休館	12	13 えほんのへやのおはなし会
14	15 本館休館	16	17	18 ビブリオバトル DB講座締切 分館休館	19	20 油絵講座 データベース講座
21	22 本館休館	23	24	25 分館休館	26 図書整理日 本館休館 分館休館	27 おはなしほけっと コレクション展
28 コレクション展	29 本館休館	30	31 ライブラリー スタート おはなし会	11/1 分館休館	11/2 ▶	11/3 文化の日 本館特別開館 アイヌ文化講座

図書館施設案内

	本館 こぐま号	アーニス分館	鷺別配本所	登別配本所	温泉配本所
住所	中央町5-21-1	中央町4-11	鷺別町3-3-4	登別東町3-6-7	登別温泉町58-1
電話	85-4324	81-2182	86-8823	83-1131	84-2068
休館日	月曜日・祝日・年末年始 本館：最終金曜日 こぐま号：日曜日	木曜日 最終金曜・年末年始	年末年始のみ		なし
開館時間	10:00~18:00 (木曜のみ19:30)	10:00~20:00	9:00~18:00 (昼休みあり)	9:00~17:30 土日祝 17:00	9:00~15:00